

<統合小学校統合中学校新校舎建設に関する疑問と不安>

1 学校再編計画について

市は、平成14年の尾道市立学校通学区域審議会の答申『尾道市立小・中学校の適正配置及び通学区域について』を踏まえて平成23年に策定した小中学校再編計画に基づき、尾道みなと小学校・尾道みなと中学校への再編についてはこれを前倒して実施したと理解しています。各学年複数学級維持を統廃合の理由としていましたがすでに複数学級は維持できないことがあきらかとなっています。

住民基本台帳や将来人口推計を踏まえての計画の見直しを行わないまま、次は重井、と実行されいていいのでしょうか。

2 統廃合と校舎新築について

重井小中学校の再編計画についての説明があったようですが、重井でも校舎が新築されるのでしょうか。

令和4年改訂の尾道市公共施設等総合管理計画では既存建物の改修使用がうたわれていますが、尾道みなとと同じく、重井でも既存校舎の活用は検討しないということでしょうか。この先統合ごとに校舎は新築される計画でしょうか。それとも久保長江土堂と重井だけが何か理由があって新築を必要としていたということでしょうか。

尾道みなとの場合、がけ崩れの土砂災害警戒区域が理由として後付けされています。

いわゆるイエローゾーンは、岩盤か砂山かを問わず、一律に自然のがけで、勾配が30度以上、高さが5m以上ある地形を指定、特別警戒区域いわゆるレッドゾーンはイエローゾーンのなかで土石等の移動により建築物に損壊が生じ、住民などの生命または身体に著しい危害が生じる恐れのある区域とされます。レッドゾーンについては自然地形のがけ（急傾斜地）に対する対策工事（吹付砕工事、待受擁壁工事、ブロック積工事により、危害が生じる恐れを軽減することができることから、特別警戒区域から警戒区域への指定変更は可能とされています。市教委はこの二つの区域について混同した説明を繰り返し、説明を受ける側に錯覚や誤解を招いています。尾道は長崎や神戸と同様、急傾斜地が観光の元でもあり、それを全否定する政策を国交省や県が指導しているものではありません。

3 尾道みなと小学校基本設計について

尾道みなと小学校の基本設計はすでに業者から納品され、3階に体育館、屋上にプールという設計と伺いましたがまちがいないでしょうか。

①3階にある体育館に問題はありますか

- ・ 災害対策基本法上の地域防災計画における指定避難所は、災害のおそれや、災害によって自宅で生活ができない人が一定の期間、避難生活を送る場所と位置付けられています。被災者などを滞在させるために必要かつ適切な規模がある施設として、学校、体育館、公民館などが指定され、短期的には生活の場となります。
<https://www.bousaihaku.com/>
- ・ 新築予定の尾道みなと小学校は避難所に指定する予定はないのでしょうか。
- ・ 新築予定の尾道みなと小学校3階の体育館を指定避難所とした場合、3階までの昇り下りが困難な地域住民が大勢いるのではないのでしょうか。
- ・ エレベーターが設置されるとしても、どのくらいの規模のエレベーターでしょうか。大きなエレベーターであっても、通常の学校活動において児童は使わないものとして管理されるということでしょうか。
- ・ 3階を指定避難所として使いながら階下で授業を継続するとすれば、避難住民や支援者の動線と児童の動線を分ける必要があるはずですが、動線分離の可能な設計でしょうか。
- ・ 他方、3階が体育館で階下が普通教室ならば、体育活動による床への衝撃音等が階下の教室に伝播しないための設計になっているのでしょうか。騒音振動の伝播を防ぐための対策にどのくらい費用の加算が必要でしょうか。
- ・ そもそも教室の階上に体育館が配置されている学校はあるのでしょうか。そうした事例で問題はないと確認しているのでしょうか。旧土堂小学校体育館には階下に理科教室、調理実習室などがありましたが、それらは日々学習するホームルームではありませんでした。

②屋上プールは必要ですか

- ・ 小学校で年間何日プールが使用されていますか。
- ・ ちなみに、千葉県佐倉市が平成30年に実施した調査では小学校プールの平均利用日数は6月中旬から7月中旬までの1か月間のみ、年間13日でした。尾道の小学校でもせいぜい10日～20日間の使用のようです。最近では猛暑のための使用中止日もふえており、これよりも利用日数は減少していくでしょう。こうしたことから、近年の新築ではプールは設置せず、既存施設を利用する学校が多いようですが、
https://www.city.kochi.kochi.jp/uploaded/life/192908_738483_misc.pdf
他施設のプールを使うという選択肢は比較検討されたのでしょうか。
- ・ 教室棟の屋上にプールが設置されている学校はあるのでしょうか。そうした事例で維持管理費用は防水対策など通常より嵩んでいるのではないのでしょうか。
- ・ ましてやプールの階下に柱が限定され、壁面だけで支えることになる体育館を配置して、プールの重量を支えるには、建物の構造上、壁面の強度を相当にたかめなければならぬのではないのでしょうか。そうした構造にはさらに建築費がかさむのでは

ないでしょうか。

③教室面積は広すぎませんか

- ・ 現在、40人学級の教室で64㎡が一般的です。尾道みなと小学校は新築時には2学年で1学級になり、その後空き教室が増えていくほか、1学級の人数もまもなく10人後半から20人になると市教委はお応えですが、20人以下の児童数に対して、64㎡では足りず、さらに20㎡のワーキングスペースを加えた80㎡以上の設計にすることです。
- ・ こどもは小さな狭いスペースを好みます。身の丈にあった空間に安心するからです。小児病院を設計するときも広すぎる空間、高すぎる天井はつくりません。20人足らずのこどもたちが80㎡という広いスペースで授業を受けるのは冷暖房効率や照明効率だけでなく、そもそも児童の注意が散漫になるおそれがありませんか。日々通う教室が広すぎる空間で、こどもたちは落ち着いて授業を受けることができるでしょうか。どう考えても広すぎるように思えますが80㎡の空間に椅子をならべて実際に検証してみてもいいかがでしょうか。

尾道の未来を考える会

2024/8/21